

■コメント

第1週は、定点医療機関の年末年始休診のため、全般に報告数が少なくなっています。

したがって、各疾患の増減の評価及び「5類感染症報告状況」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

なお、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は、多い状態が続いていると考えられます。

■5類感染症報告状況(定点把握対象分)

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1間)	発生記号
インフルエンザ(注2)	99	2.68	1.56		ヘルパンギーナ	-	-	0.01	
咽頭結膜熱	-	-	0.25		流行性耳下腺炎	-	-	0.95	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	0.96	0.63		RSウイルス感染症	2	0.08	0.43	
感染性胃腸炎	208	8.67	10.27		急性出血性結膜炎	-	-	0.08	
水痘	46	1.92	2.37		流行性角結膜炎	-	-	0.73	
手足口病	2	0.08	0.08		細菌性髄膜炎	-	-	-	
伝染性紅斑	3	0.13	0.08		無菌性髄膜炎	-	-	0.03	
突発性発しん	8	0.33	0.44		マイコプラズマ肺炎	4	0.57	0.20	
百日咳	1	0.04	0.02		クラミジア肺炎(注3)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間(RSウイルス感染症は4年間)の同時期平均(定点当り)

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

(注3) オウム病を除く

■1類～5類感染症報告状況(全数把握対象分)

報告はありません。

■5類感染症報告状況の推移(定点把握対象分)

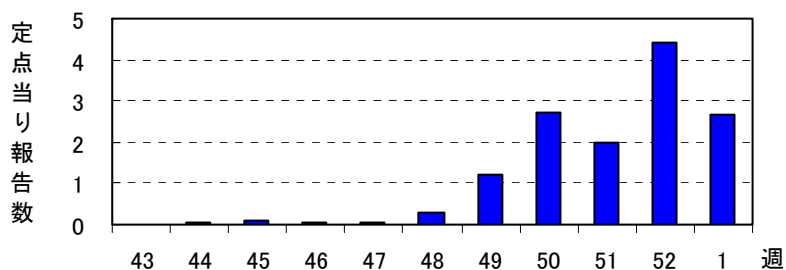
			インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注2)	
報告数	広島市	第49週	44	3	54	287	44	1	1	16	6	－	8	51	－	3	1	1	2	－	
		第50週	101	10	55	429	82	－	－	9	20	4	1	9	46	－	3	－	－	2	－
		第51週	73	8	48	524	68	1	4	15	4	－	5	16	－	1	－	－	3	－	
		第52週	164	2	48	632	92	4	6	14	4	－	9	15	－	3	－	－	－	－	
		第1週	99	－	23	208	46	2	3	8	1	－	－	2	－	－	－	－	4	－	
定点当り	広島市	第49週	1.19	0.13	2.25	11.96	1.83	0.04	0.04	0.67	0.25	－	0.33	2.13	－	0.38	0.14	0.14	0.29	－	
		第50週	2.73	0.42	2.29	17.88	3.42	－	0.38	0.83	0.17	0.04	0.38	1.92	－	0.38	－	－	0.29	－	
		第51週	1.97	0.33	2.00	21.83	2.83	0.04	0.17	0.63	0.17	－	0.21	0.67	－	0.13	－	－	0.43	－	
		第52週	4.43	0.08	2.00	26.33	3.83	0.17	0.25	0.58	0.17	－	0.38	0.63	－	0.38	－	－	－	－	
		第1週	2.68	－	0.96	8.67	1.92	0.08	0.13	0.33	0.04	－	－	0.08	－	－	－	－	0.57	－	
	全国	第51週	4.68	0.46	2.43	15.85	2.28	0.29	0.09	0.60	0.04	0.06	0.58	0.98	0.03	0.62	0.02	0.02	0.49	0.02	
		第52週	6.52	0.40	1.96	13.88	2.41	0.23	0.09	0.54	0.03	0.04	0.55	0.79	0.02	0.65	0.02	0.01	0.47	0.05	

■新たに判明した病原体検査結果

新たな検査結果はありません。

【参考】広島市におけるインフルエンザの定点当り報告数と迅速診断検査結果との比較

インフルエンザ定点からの患者報告数



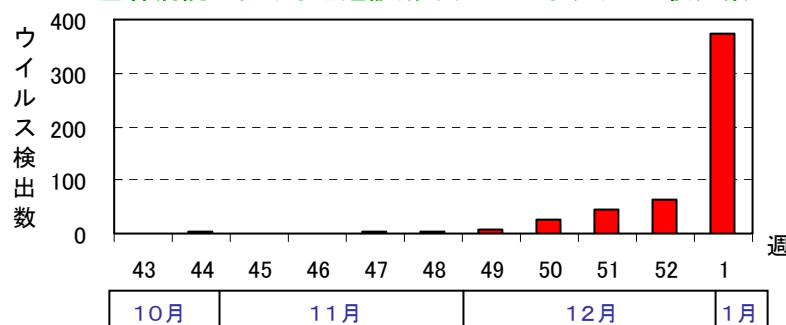
インフルエンザ定点医療機関(市内37か所)からの報告は、流行が始まってから増加傾向で推移していましたが、年末から年始にかけての第1週は、医療機関の休診が多かったため、報告数は減少しています。

しかし、インフルエンザは多い状態が継続していると考えられ、学校が始まった第2週以降の動向に注意が必要です。

基幹病院(2か所)における迅速診断キットによるウイルス検出数は、第1週に前週の5倍以上に激増しました。これは、この期間も診療を行っていたため、患者が集中したためと考えられます。

なお、今シーズンこれまでに迅速診断キットによる検出数の型別内訳は、A型陽性が492人、B型陽性が33人と、ほとんどがA型陽性です。

基幹病院における迅速診断キットによるウイルス検出数



基幹病院2か所による迅速診断キットの検査結果は、広島市感染症情報センターのホームページに掲載して、毎週更新しています。
http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/kan_center/syh_graph/kito.htm

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
 TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.jp

2009年第1週(12月29日～1月4日)